戦争と平和特集

未来への伝言

～あの日の声が聞こえますか～

終戦から66年。年月とともに身近にいる戦争体験者は姿を消していきます。彼らの体験した戦争の事実は、次世代に受け継がれているのでしょうか。

今回は、次世代を担う高校生が、実際の戦争体験者と「戦争と平和」について語り合います。

皆さんも戦争のこと、平和のことをもう一度考えてみませんか。

市立博物館歴史民俗資料館「戦争とくらし」コーナー：戦争をテーマとした実物資料などを展示しています。

アンケートによる検証

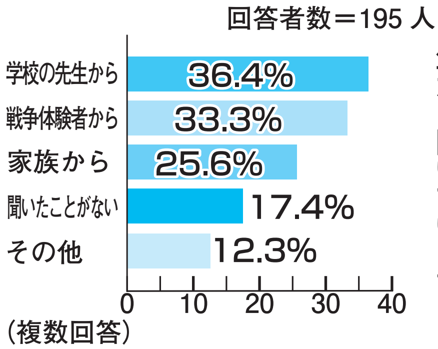
戦争に関する意識調査

富士市立高校1年生195人に、戦争に関するアンケートを実施しました。平成に生まれた高校生は、昭和に起きた戦争をどうとらえているのでしょうか。高校生の本音に迫ります。

戦争に関する知識

Q 戦争に関する実話を聞いたことがありますか。ある場合はだれからですか。

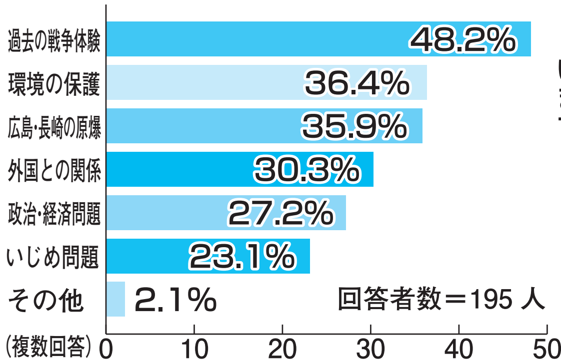
A 約36%の生徒が学校の先生から聞いています。



アンケートに回答した生徒のうち、戦争に関する実話を「学校の先生から」聞いたと回答した生徒は約36%を占めています。この値は、「戦争体験者から」、「家族から」と回答した数を上回り、最も多くなっています。

Q 平和な社会をつくるために、学ぶ必要があると思うことは何ですか。

A 約48%の生徒が「過去の戦争体験」だと回答しています。



座談会～戦争体験者と高校生が語り合う～

命の尊（とうと）さを学ぶとき

7月15日に富士市立高校1年生6人が、戦争体験者である橋口傑（すぐる）さんと沖縄戦の取材活動をしている山﨑ひろみさんとともに、市立博物館歴史民俗資料館「戦争とくらし」コーナーを訪れ、焼夷（しょうい）弾や満州開拓義勇軍の写真などの展示を見学しながら、当時の様子を学びました。

その後高校生6人は、稲垣家住宅で橋口さんと山﨑さんを交えて、戦争と平和について語り合いました。

広見公園　稲垣家住宅

戦争の事実を知ることは怖いこと、でも知っておかなければいけないこと

戦争がもたらす悲劇

橋口ー皆さんは今、学校にお弁当を持っていっていますか。

高校生一同ーはい。

橋口ー戦争中は、働き手がみんな軍隊に入ってしまって、学校へお弁当を持っていくことができないくらい、どんどん食糧がなくなりました。当時、1か月も2か月も、まともな食事が食べられないときがありました。そうすると小さな子どもたちから、栄養失調で亡くなっていきました。夜に生きていても、朝になると冷たくなって死んでいることもよくある出来事でした。それくらい食糧がなかったのです。

橋口ー皆さんは何歳ですか。

高校生一同ー15歳か16歳です。

橋口ー私は14歳で満州開拓義勇軍として中国へ戦争に行きましたが、皆さんは行けと言われたら行きますか。

齋藤ー当時だったら、行くように教育されていただろうから、怖いけど行ったと思います。

齋藤遼（りょう）さん

橋口ー確かに満州へ行った最大の原因は当時の教育にあるけれど、もう一つ理由があります。それは、一人でも家族が

座談会参加者

橋口傑（すぐる）さん：戦争体験者
（「富士の語り部」の会）

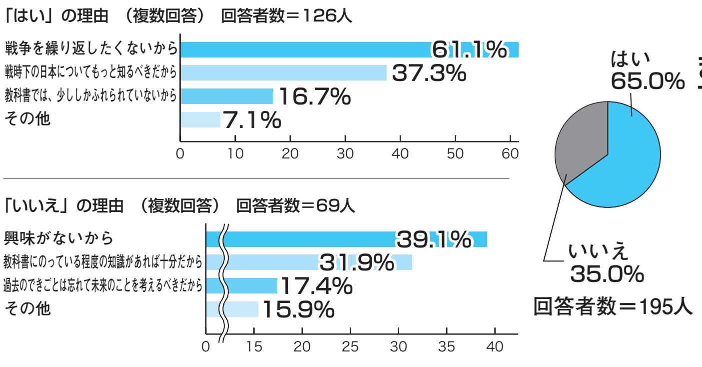
山﨑ひろみさん：核兵器廃絶平和富士市民の会

富士市立高校1年生6人

過去の戦争への関心

Q 日本がかかわった過去の戦争について、あなたはもっと知りたいと思いますか。

A 約65％の生徒が「もっと知りたい」と回答しています。



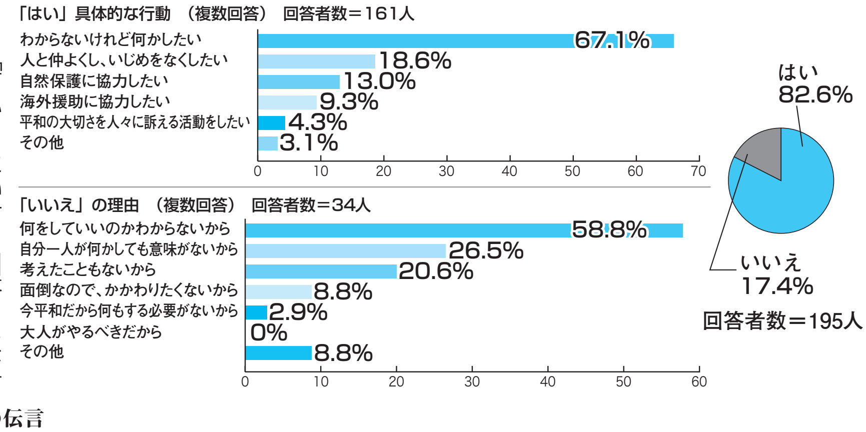
「もっと知りたい」と回答した理由の大半は、「戦争を繰り返したくないから」との回答でした。

一方、「知りたくない」と回答した理由は、「興味がない（約39％）」、「教科書にのっている程度の知識で十分（約32％）」、の順でした。

平和への意識

Q 平和のために何かしたいと思いますか。

A 約83％の生徒が「何かしたい」と回答しています。



「何かしたい」と回答した生徒の約67％は「わからないけれど何かしたい」と回答しています。

一方、「何かしたいと思わない」と回答した生徒の約59％が「何をしていいのかわからないから」と回答しています。